

2021年8月6日

県知事 仁坂 吉伸 様  
県議会議員 森 礼子 様  
県議会議員 各位

市長 尾花 正啓 様  
市議会議員 吉本 昌純 様  
市議会議員 各位

ストップ！カジノ和歌山の会

和歌山市毛見 165-6

## IRカジノ誘致に関する県の方針について

はじめに

和歌山県は7月20日、IRカジノの運営事業者として「クレアベスト」を選定したと発表しました。これは、本命視されていた「サンシティ」に資金洗浄への関与などの疑惑が発覚し、そのため同社が辞退したことを受けての決定です。

新型コロナウイルスの世界的流行により、巨大施設に客を集め、長時間密集状態でギャンブル漬けにするIRカジノのビジネスモデルは大打撃を受けました。カジノの世界でもオンライン化が進んでおり、カジノ施設の莫大な収益を当てにするIRビジネスに未来はありません。また、カジノ施設が反社会勢力の違法な資金洗浄に利用されたり、オンラインカジノの拠点にされる恐れもあります。ところが県はIRカジノに固執し、これに和歌山の未来を託そうとしています。反社会的勢力を招き入れるIRカジノは、安心・安全な和歌山を破壊し、和歌山を無法の町へと変貌させ、青少年の健全な育成環境を壊し、観光客を遠ざけるだけです。

自治体が、「負けた人の不幸で成り立つ」カジノを中核とするIR事業から収益を得るとするのは、博打の上前をピンハネするのと同じで、反社会的行政と言わざるを得ません。住民の福祉増進を本旨とする自治体が、ギャンブルに和歌山の未来を託すというのは恥ずべきことです。

和歌山には自然、文化、歴史など全国有数の観光資源がたくさんあります。紀伊民報7月23日付は、「じゃらんリサーチセンター」が実施した2021年度宿泊旅行調査で、和歌山県が「ご当地ならではの体験」「子どもが楽しめるスポット」がそれぞれ3位、総合満足度でも8位となり、熊野古道や温泉が高い評価につながった、と報じています。

県が行うべきことは、こうした和歌山の魅力を発信し観光客を増やす、カジノ抜きの観光行政をもっと充実・発展させることではないでしょうか。

## 1 知事は首長としての公正さに欠ける

和歌山県の IR カジノ誘致は、知事一人が突っ走っているように思えてなりません。

「県民の友」7月号の「知事メッセージ」欄で、知事は、「シングル・イシュー」と題して、一つのことだけを取り上げて反対することには問題があり、意見の違う人の言うことも聞く耳を持っていないといけないと述べました。これは、市民がカジノ誘致反対の一点で共同して運動を進めていることに対し不当な中傷を行い、運動のイメージダウンを図ろうとするものです。知事が、その立場を利用し、あろうことか「県民の友」という広報誌を使って市民運動に対して圧力をかけるのはアンフェアであり、常軌を逸しています。強く抗議します。

## 2 選定委員会は機能していない

選定委員会は、マカオの「サンシティグループ」がマネーロンダリングやマフィアとの関係が取りざたされていたにもかかわらず、これを黙認し同グループに高評価を与えました。本来ならオーストラリアで資金洗浄疑惑が報じられた時点で直ちにこれを調査し「サンシティグループ」を外すべきでした。反社会的勢力との関係が取り沙汰されている事業者が県の資格審査を簡単に通過し、最有力候補者とされてきたこと一つをとっても、和歌山県レベルで海外のカジノ事業者の反社会的勢力との関係を調査することなど凡そ不可能と言えます。また、選定委員会が知事の意向に沿って、都合の悪いデータは無視するという姿勢では、選定委員会は単にお墨付きを与えるためのお飾りと言わざるを得ません。

## 3 申請書の内容が不十分でも選定するのか

選定委員会は、「サンシティ」も「クレアベスト」も、県が求める水準の資金調達の実績を裏付ける資料を提出していないと指摘しました。これは本来なら審査に入る前に失格のはず。事業資金を持っているかどうか分からない相手と契約するような企業や自治体はありません。

「クレアベスト」はカジノ事業者ではなく投資会社であり、IR 施設を経営した実績も経験ありません。他の2つの事業者「AMSE リゾーツジャパン」「グループ・パルトゥーシュ」とコンソーシアム（共同事業体）を組むといいますが、「AMSE リゾーツ」(※)は資本金がわずか1~2万円のコンサルタント会社であり、「パルトゥーシュ」はフランスでホテルなど小さいカジノを運営している会社です。このようなわか仕立ての共同体では、大規模な IR カジノを運営する事業者として適格かどうか判断できるものではありません。それにもかかわらず焦ってまともな審査もせずに「クレアベスト」を選定した県の姿勢は極めて無責任です。

※AMSE リゾーツは、ジェームス・ワイドナー(ラスベガスの「ラッキードラゴン」のマネージングプリンシパル)やマリオ・ホー氏(マカオのカジノ王のスタンレー・ホー氏の息子)らが幹部に名を連ねるが、その実態は不明

#### 4 ギャンブル依存症に陥った人と同じ姿勢で突き進むのは危険

「県幹部は『多額の予算をつけて準備してきたので、もう撤退はできない。クレアベストを選ぶしかない』と話す」(朝日新聞6月2日付)と報じられています。これでは、「損を取り戻さねば」と深みにはまっていく、ギャンブル依存症に陥った人の行動と同じです。後戻りの選択肢がなく、だれが見ても危うい事業者を選定して誘致を進めるといふ、愚かな行為はやめるべきです。県は、IR カジノからの撤退という良識ある判断をすべきです。

#### 5 クレアベストの回答は不誠実で無責任

7月8日、県議会全員協議会で「クレアベスト」の説明会が開かれました。しかし各会派の議員からの質問に対し、「クレアベスト」の担当者の回答はほとんど内容がなく、「県のご指導を賜って」「議員のご知見をいただいて」というだけに終始しました。

大阪にも IR 計画があることを聞かれると、「和歌山には、素晴らしいところがたくさんある。カジノは周辺との（関係で）問題があるが、IR はちがう。IR なら大阪には負けない」などと、カジノはしないかのような回答です。「IR とカジノは違う」というのはごまかしに過ぎません。

「クレアベスト」は和歌山の自然、文化、歴史などの観光資源をうたい文句に参入してきていますが、和歌山のよいところを外国資本のもうけの道具にしてほしくありません。

#### 6 県・県議会、市・市議会は厳正な審議と情報公開を

県は今後、区域整備計画を「クレアベスト」と一緒に作成することになります。県が IR カジノ誘致に前のめりの姿勢をとり続けるかぎり、また単独事業者との協議では、「クレアベスト」側の要求を丸呑みした計画になってしまうのは明らかです。市がこれに追随するなら、なおさらです。

知事は私たちの運動を「カジノ反対で凝り固まった人たち」と中傷するばかりで、私たちの客観的・合理的な根拠に基づく批判や疑問に誠実に答えようとせず、密室で区域整備計画を作り上げようとしています。県議会と市議会には IR カジノ誘致について厳正な是々非々の姿勢を貫いていただきたい。県民、市民の批判や疑問にもしっかり耳を傾け、審議経過をすべて公開しながら、徹底的に審議を尽くしてください。IR カジノ誘致は 50 年、100 年先の和歌山の姿に関わる重大な問題です。誘致の是非については、県民、市民 1 人 1 人の意思がしっかり反映されなければなりません。